

多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト 十次発掘報告書（速報）



【粘土から顔を出したシカの指骨】



【専門班 Mt先生から貝の採集や観察方法を学ぶ】

実施期間：令和5年4月22日（土）～30日（日）
住友大阪セメント（株） 滋賀鉱産（株）敷地にて

十次発掘の概要と成果

平成25年に始まった多賀町古代ゾウ発掘プロジェクトは、平成28年度には中間報告書「180～190万年前の古環境を探る」を刊行した。また、令和2年度には普及書「多賀はゾウの里だぞう」を刊行した。令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止により中止としたが、令和3年度と4年度は感染拡大防止を徹底しながら8次、9次発掘を実施した。今年度は、ほぼコロナ禍以前の運営体制に戻し、琵琶湖博物館はしかけ古琵琶湖発掘隊が13人（内高校生2人）、多賀町発掘お助け隊が40人（内小学生10人中学生4人、高校生1人）、専門班・教育普及班が16人となり事務局を含めると76人の体制で実施した。その特徴は小学1年生から80歳を超える方まで幅広い年齢層であること、多賀町発掘お助け隊が過去最多の人数となったことである。発掘調査は令和5年4月22日から30日までの9日間を予定していたが、25日、26日が雨天中止となり実質7日間の調査発掘となった。

（1）目的

- ① 180～190万年前の多賀町および日本列島の古代の歴史を探る。
- ② 一般の方々が研究者とともに調査し、発掘の楽しさや学ぶ喜びを共有する。

（2）組織と運営

今までと同様に多賀町立博物館が事務局を担い、琵琶湖博物館、はしかけ古琵琶湖発掘隊、化石発掘ボランティアのアミンチュプロジェクト BBC 藤井組、そして多賀町発掘お助け隊で組織し運営する。

（3）発掘の日程

① 事前協議

日 時：令和5年3月4日（土）
参加者：専門班員4人、事務局員4人
内 容：10次発掘の方針について

② 事前準備

日 時：令和5年4月4日（火）～21日（金）
場 所：滋賀産敷地内発掘現場
参加者：事務局員および専門班
内 容：発掘地の排水と安全整備作業

③ 新規登録者オリエンテーション

日 時：令和5年4月8日（土）
場 所：大会議室
内 容：多賀町発掘お助け隊に初めて参加した方々を対象に発掘の目的や方法について解説し、調査発掘の心構えについて説明した。

④ 発掘

日 時：令和5年4月22日（土）～4月30日（日）
場 所：滋賀産敷地内発掘現場
内 容：9次発掘に引き続きF層を掘り進める。



【初日、準備万端で出迎える】



【隊員受付始める】



【朝の打合せでの課長等あいさつ】

⑤成果とまとめ

採集化石：合計349点（植物202点、昆虫76点、魚咽頭歯・背骨24点、貝33点、シカ寛骨・指骨等4点、その他（海綿コハク等）10点詳細下表（化石の名は現場での判定）

日	曜	参加者数	採集された化石					
			植物	昆虫	魚(咽頭歯)	貝	シカ等骨	コハク、海綿、その他
22	土	40人	23	15	4	1	1	2
23	日	31人	45	27	6	7	0	1
24	月	14人	19	5	1	4	1	0
27	木	17人	35	1	0	7	0	0
28	金	15人	25	11	1	1	0	1
29	土・祝	38人	19	13	11	9	1	5
30	日	28人	36	4	1	4	1	1
合計		183人	202	76	24	33	4	10



【第一日目に発見された骨をクリーニングする専門班 Tさん】



【クリーニングにより取り出された指骨】



【専門班 H・Nさんの自己紹介とサイ化石の話】



【地層に立った状態で発見された骨】



【子ども達向けにトレンチの地層断面を説明する専門班 Sさん】



【取り出されたシカ寛骨】



【コロナ禍前に戻った発掘地】



【最終日の閉会式】